

担当：阿部小涼 (あべこすず)
<http://okinawaforum.org/abksz/>
 kosuzu@ll.u-ryukyu.ac.jp (通常の連絡用)
 kosuzu@eve.u-ryukyu.ac.jp (課題の提出用)
 Office Hour 火曜日 4 限
 (事前に e-mail でアポイントを取ること。)

B 琉 33 現代の国際関係 **peg2**
火曜 6 限 共 3-104 教室

琉 33 現代の国際関係 **4sae**
金曜 4 限 共 3-104 教室

[講義内容] 「社会運動から見る国際関係」

主として米国を舞台として起こったいくつかの社会運動の事例を採り上げて、歴史的な変遷を意識しつつ、その国際的視野、運動の広がり方、新しいスタイルと過去の継承などを検討する。講義内容を理解した上で、現在の自分の周辺で行われている社会運動について関心を広げ、国際的広がりという観点から調査し批評出来るようになることが、講義の到達目標である。

[テキスト] 講義の中で適宜指示します。

[評価] (1) 講義中の発言 (30%) (2) 期末レポート (4000 字程度のもの) (70%)

●期末レポートについて

課題：①「新しい社会運動」の事例をひとつ採り上げ、②具体的に紹介し、③そのスタイル・理念・歴史的継承について分析しなさい。

-講義のなかで取り上げるテーマのいずれかを選択し、それに即した具体的事例を取り上げ論じてください。

-4000 字程度。-観察か、参加か、はたまた参与観察なのか。いずれにしても「現場」に居合わせることを重視します。-映像・画像資料の添付は大いに歓迎されます (字数に含まず)。-レポートの形式 (出典の明記、脚注、文章の洗練など) を重視します。-剽窃・盗作が認められたばあい、講義の単位自体を不合格とします。

[備考]

●昼間主の時間と夜間主の時間、ふたつあります。都合のよいほうを履修して下さい。

●登録人数によって教室を調整するので、注意してください。

●講義の進め方を、初回 10 月 13 日/10 月 9 日のイントロで確定しますので、履修する者は必ず、初回講義に出席すること。

●多読・精読を求めます。

●批評的姿勢、自分なりの事例の提案、理論に基づいた状況への介入を歓迎します。

スケジュール

B 琉 33 (夜間主)		琉 33 (昼間主)
10 月 13 日 (火)	(1) イントロダクション	10 月 9 日 (金)
10 月 20 日 (火)	(2) <労働>自由と生存! イマドキの労働運動	10 月 23 日 (金)
10 月 27 日 (火)	(3) ライブラリ・ワークショップ (図書館 OS にて)	10 月 30 日 (金)
11 月 10 日 (火)	(4) <スペクタクル>に抗する落書き	11 月 6 日 (金)
11 月 17 日 (火)	(5) <スペクタクル>カルチャー・ジャマー叛乱	11 月 13 日 (金)
11 月 24 日 (火)	(6) 「書を捨てよ、町へ出よう」の日	11 月 20 日 (金)
12 月 1 日 (火)	(7) <コモンズ>ストリートを取り戻せ	11 月 27 日 (金)
12 月 8 日 (火)	(8) <コモンズ>都市菜園、バス乗客	12 月 4 日 (金)
12 月 15 日 (火)	(9) <オルター・グローバリズム>DIY、FNB	12 月 11 日 (金)
12 月 22 日 (火)	(10) <オルター・グローバリズム>シアトルから始まった	12 月 18 日 (金)
	冬休み	
1 月 5 日 (火)	(11) <LEFT=RIGHT>レフティング! ライティング講習	1 月 8 日 (金)
1 月 12 日 (火)	(12) <オルター・グローバリズム>法人資本主義批判	1 月 22 日 (金)
1 月 19 日 (火)	(13) <ストーミング・ザ・ミレニアム>反抗を解放せよ	1 月 29 日 (金)
1 月 26 日 (火)	(14) <ストーミング・ザ・ミレニアム>基地を解体する	※2 月 2 日 (火)
2 月 2 日 (火)	(15) レポート提出期限	2 月 5 日 (金)

※10 月 16 日 (金) =月曜授業の振替日

※11 月 3 日 (火) =日本の休日

※12 月 25 日 (金) =世界の休日、たぶん。

※1 月 15 日 (金) =センター入試前日で休講

※2 月 2 日 (火) =補講期間を使用して、金曜日の授業の補講とします。

■10月9日(金) / 10月13日(火)

(1) イントロダクション

新しい社会運動とはなにか=この人たちはいったい何をやっているのか？

[映像資料]

▼I.N.B. -History 1999-2006 ilcommonz

<http://www.youtube.com/watch?v=OBABeVtB7ek>

▼CLOWN ARMY TALKS ABOUT BLACK BLOC (w/Japanese subtitle)

<http://www.youtube.com/watch?v=7tM8jM5vPDg>

※リンクを辿ってみると・・・！

「社会運動とは、①複数の人びとが集合的に、②社会のある側面を変革するために、③組織的に取り組み、その結果④敵手・競合者と多様な社会的な相互作用を展開する非制度的な手段をも用いる行為である。」

大畑ほか『社会運動の社会学』p.4.

「現在、世界各地で巨大な集団的抗議行動が起こっている。これに対し、ジャーナリズムは『反(アンチ)グローバリゼーション運動』というレッテルを貼りがちである。しかし、参加している当事者たちは、自分たちの集まりを、『社会運動』『市民運動』あるいは『グローバル・ジャスティス運動』だと位置づけている。ジャーナリズムが、このムーブメントを簡略に呼ぼうとするときには、参加者たちは、不正確で侮辱的ですからある『反(アンチ)』より好ましい、『別の(オルター)』とか『対抗的(カウンター)』を冠したグローバリゼーション運動と呼ばれることを認めるだろう。」

スーザン・ジョージ『オルター・グローバリゼーション宣言』p.11.

新左翼時代の活動家と今日のアクティヴィストを峻別する最も克明な差違は、前者が未来において実現されるべき理想を培う「理念」に奉仕する者たちであったのに対して、後者にとっては自らの存在とそれを部分とする集合性以上の価値はこの世に存在しない、それが出発点であり回帰点であるという点である。したがってその二者の間では「理論」の位相が甚だしく異なっている。前者においては全ての原理を構成する「理論」は絶対である。それが出発点であり実践を挟んで回帰点ともなる。一般民衆が知らず知らずのうちにそれに既定されて生きている世界の経済構造の法則を掴み、かつそこから世界変革の原理を導き出すもの、かかる「外在的法則」に言葉を与える者が解放運動の指導者となる。そしてこの運動を闘う活動家は彼(の思想)に仕える「兵士」となる。この場合「闘争自体」は解放のための必要悪であり、犠牲的行為となる。そこに幸福や喜びの要素は有り得ないしまたあってはならない。この活動家の最終的な立脚点は与えられた「使命感」である。それに対して後者においては「闘争=アクティヴィズム」こそが最も豊かであるはずの領域であり、それをより醸成させていくこと自体が目的なのである。つまりところ今日のアクティヴィストの理論的営為の主眼は「この行動」のための「プラグマティックな楽天主義」の獲得である。

「アクティヴィスト」の中には異なった理論的立場が存在する。そしてその立場の違いから日々対立/抗争が生起している。ただしそのために相手を憎みつくし破壊しつくし殺しつくすというようなことは有り得ない。対立/抗争を繰り返しながらも、原理的にはお互いの立場の違いを大きな運動の中の部分と捉えている。闘いの戦術についても、直接行動派は非暴力主義を軽蔑して同類のみと行動するというような精鋭主義/セクト主義は可能なかぎり避けられている。また逆に非暴力主義者が、あらゆる非合法的な直接行動を取り締まるということもあってはならない。戦術の合意性が強力な「類縁(アフィニティ)グループ」を形成することは常にあるが、いくつもの「類縁グループ」が一単位として参加して全体が形成されるひとつの大行動の内部には合法から非合法までいくつもの段階が存在しえるし、行動のタイプも「パフォーマンス性」の強いものから「対決性」の強いものまで、幾通りもありえる。その全体の配合と位置づけは「スポークス評議会(spokes council)」において相互に調整(コーディネーション)され決定される。つまり彼/彼女らは「直接民主主義」を地で生きようとしている。

「アクティヴィズム」は徹底した「反前衛主義(アンチ・バンガードイズム)」である。アクティヴィストは自らが民衆を指導するとは考えていない。彼/彼女らにとっては自らも民衆の部分である。したがって組織化とは指導ではなく、ネットワークの拡張である。また知性(インテリジェンス)とはそれを持っている者が、持っていない者を教えるためにあるのではなく、誰でも必要な場合それを「調査」によって獲得し他者と共有するためにある。アクティヴィズムは特定の英雄を生産する場ではない。誰もが同じ強度を持って自己を主張する語の真の意味での「異種混合的社会」を形成しようとする場である。かかる存在様態はわれわれに全く新しい「集合的存在性」の喜びを教える。それは経済至上主義が信じ込ませる「利益」とは異なった「喜びの原理」を集団的に開発し、ネオリベラリズムによって絶対化されてきた「私的個人」というものの対極的存在性を指し示している。

高祖岩三郎『ニューヨーク烈伝：闘う世界民衆の都市空間』青土社 2007年、pp.294-95.

[講義の受け方、後期の過ごし方]

▼沢山の映像資料を紹介します。多くは英語で字幕や翻訳のついていないものを採り上げますが、講義時間中によく理解できなかったとしても自分で何度も見直すことができるような素材となるよう意識して、YouTube などアクセスの容易なものを選んで使用します。☞トラブル急増中！

▼映像資料を視聴するときには、積極的にメモを取って下さい。映像を見る=読む目を鍛えましょう。

▼重要な概念や理論など、講義中には十分に扱いきれないこともあります。自分で調査する努力を。

▼好奇心旺盛に、じっさいに運動の現場に出かけ、自分の目で見て体験すること。

▼その参考となるようなイベントを講義の冒頭で紹介します。皆さんも告知があれば発言してください。

[さっそくイベント紹介]

▼10月10日 辺野古座り込み 2000日集会

10時より海上案内、11時より集会、13時よりイベント

▼10月18日午後4時30分- (延期開催の) 第11回満月まつり

場所：瀬嵩の浜 特設イベント会場 (名護市瀬嵩/大浦湾)

料金：大人→前売1000円/当日1200円 中高生→500円/小学生以下無料

出演：海勢頭豊、まよなかしんや、金城繁、知念良吉 with sea 泡瀬楽団、知花竜海、城間竜太、hanauta、フラムーンズ (フラダンス)、スワロッカーズ、瀬嵩青年会エイサー他

★主催：沖縄満月まつり実行委員会 TEL&FAX：0980-55-8587(じゅごんの里)

HP→<http://mangetsumatsuri.ti-da.net> メール→ourawan_dugongs@aqua.plala.or.jp

★共催：命を守る会、二見以北十区の会、ヘリ基地反対協、ジュゴン保護基金、ジュゴン保護キャンペーンセンター、北限のジュゴンを見守る会、ヘリパッドいらない住民の会、泡瀬干潟を守る連絡会、クラブハンズ！他 ※会場の浜を使用前よりキレイにするために、ゴミの持ち帰りにご協力下さい。

▼10月21日(水) 11時- 辺野古・違法アセス訴訟第1回公判@那覇地裁

[講義内容]

<労働>

■10月20日(火) / 10月23日(金)

(2) 自由と生存！イマドキの労働運動

ジャスティス・フォー・ジャーナター/移民のメーデー

自由と生存のメーデー2008/インディーズ系メーデー！？/フリーター全般労組/ガソリンスタンド占拠/素人の乱と高門寺北中通り/fuf「われわれは社会のニョッキである」/生存権/ベーシック・インカム/

■10月27日(火) / 10月30日(金)

(3) ライブラリ・ワークショップ

図書館オープンサテライトにて(人数による制限あり。登録調整終了後に確定します。)

<スペクタクル>

■11月6日(金) / 11月10日(火)

(4) スペクタクルに抗する落書き

落書きしたら逮捕?!/ゲージュツによる抵抗/246プロジェクト/ワンダーウォールキャンペーン/

■11月13日(金) / 11月17日(火)

(5) カルチャー・ジャマーの反乱

■11月20日(金) / 11月24日(火)

(6) 書を捨てよ、街へ出よう

※教室での講義はありません。課題研究のため観察に出かけてみて下さい。

<コモンズ>

■11月27日(金) / 12月1日(火)

(7) ストリートを取り戻せ

ACT UP!/RTS/刑務所産業に抗する/音の力/占拠する/座り込む/アウトノミア/

■12月4日(金) / 12月8日(火)

(8) 都市、菜園、バス乗客

あたいぐわーする抵抗/バス乗客ユニオン/抵抗運動としての映画上映会/コミュニティを目指す運動

<オルター・グローバリズム>

■12月11日(金) / 12月15日(火)

(9) DIY、FNB

炊き出ししたら逮捕?! / 抵抗食の会 / DIY / ジンの世界 /

■12月18日(金) / 12月22日(火)

(10) それはシアトルから始まった

WTO、IMF、G8、グローバリゼーションへの反抗

■1月5日(火) / 1月8日(金)

(11) <LEFT=RIGHT>レフティング?ライティング講習:レポートの書き方

ローレンス・レッシング / コピーレフト / クリエイティヴ・コモンズ / 期末レポートの書き方講習

■1月12日(火) / 1月22日(金)

(12) 法人資本主義批判:ブランドなんかいない

グローバル資本への抵抗 / ナオミ・クラインの主張 / 大学ブランド T シャツとスウェットショップ / ジョゼ・ボヴェのマクドナルド解体

<ストーミング・ザ・ミレニアム>

■1月19日(火) / 1月29日(金)

(9) 反抗を解放せよ

フランス学生暴動 / フリーベット / コザ暴動 / 暴動・暴動・暴動!

■1月26日(火) / 2月2日(火)

(12) 基地を解体する

パイン・ギャップ・フォー / 戦闘機を解体する母たち / ビエケス島射爆場撤去 / 安波・安田・豊原の基地建設阻止

■2月2日(火) / 2月5日(金)

(15) レポート提出日

同日の深夜24:00までに e-mail 提出して終了!

[たとえばこんな参考文献]

大畑・成・道場・樋口編『社会運動の社会学』有斐閣選書 2004年。

ナオミ・クライン著、松島聖子訳『貧困と不正を生む資本主義を潰せ:企業によるグローバル化の悪を糾弾する人々の記録』はまの出版 2003年。

ナオミ・クライン著、松島聖子訳『ブランドなんかいない:搾取で巨大化する大企業の非情』はまの出版 2001年。

デイヴィッド・グレーバー著、高祖岩三郎訳『アナーキスト人類学のための断章』以文社 2006年。

ロビン・D・G・ケリー著『ゲッターを捏造する:アメリカにおける都市危機の表象』彩流社 2007年。

高祖岩三郎『ニューヨーク烈伝:闘う世界民衆の都市空間』青土社 2006年。

高祖岩三郎『流体都市を構築せよ!:世界民衆都市ニューヨークの形成』青土社 2007年。

国際労働研究センター編著『社会運動ユニオンイズム:アメリカの新しい労働運動』緑風出版 2005年。

スーザン・ジョージ著、杉村昌昭・真田満訳『オルター・グローバリゼーション宣言』作品社 2004年。

陣野俊史『フランス暴動:移民法とラップ・フランセ』河出書房 2006年。

曾良中・長谷川・町村・樋口編『社会運動という公共空間:理論と方法のフロンティア』成文堂 2004年。

エティエンヌ・バリバル著、松葉祥一訳『市民権の哲学:民主主義における文化と政治』青土社 2000年。

グレゴリー・マンツィオス編、戸塚秀夫監訳『新世紀の労働運動:アメリカの実験』緑風出版 2001年。

DeMusik Inter.編『音の力:<ストリート>占拠編』インパクト出版会 2005年。

カレ・ラースン『さよなら、消費社会:カルチャー・ジャマーの挑戦』大月書店 2006年。

雑誌『VOL01』;『VOL02』;『VOL03』以文社 2006-08年。